

平成29年度第4回

中小企業景況調査報告書

平成30年	1月～	3月期	報告
平成30年	4月～	6月期	予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成29年1月～3月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 勝浦市商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、白井市商工会、鋸南町商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成30年1月～3月を対象とし、調査期間は平成30年2月22日～3月1日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比
製造業	29	17.5%
建設業	27	16.3%
小売業	42	25.4%
サービス業	67	40.6%
合計	165	

(小数点1位以下四捨五入)

(2)業種別構成

① 製造業

業種	回答企業数	構成比
食料品製造業	12	41.4%
飲料・飼料・たばこ製造業	2	6.9%
家具・装備品製造業	1	3.4%
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.4%
印刷・同関連業	1	3.4%

窯業・土石製品製造業	1	3.4%
金属製品製造業	3	10.3%
精密機械器具製造業	1	3.4%
その他製造業	7	24.1%
合 計	29	

(小数点 1 位以下四捨五入)

② 建設業

業 種	回答企業数	構成比
総合工事業	13	48.1%
職別工事業	12	44.4%
設備工事業	2	7.4%
合 計	27	

(小数点 1 位以下四捨五入)

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比
各種商品小売業	2	4.8%
織物・衣服・身の回り品小売業	5	11.9%
飲食料品小売業	23	54.8%
家具・建具・じゅう器小売業	3	7.1%
その他小売業	9	21.4%
合 計	42	

(小数点 1 位以下四捨五入)

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比
一般飲食店	25	37.3%
宿泊業	5	7.5%
運送業	2	3.0%
自動車整備業	13	19.4%
洗濯・理美容業	12	17.9%
その他のサービス業	10	14.9%
合 計	67	

(小数点 1 位以下四捨五入)

本報告書中の[DI 値]とあるのは、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

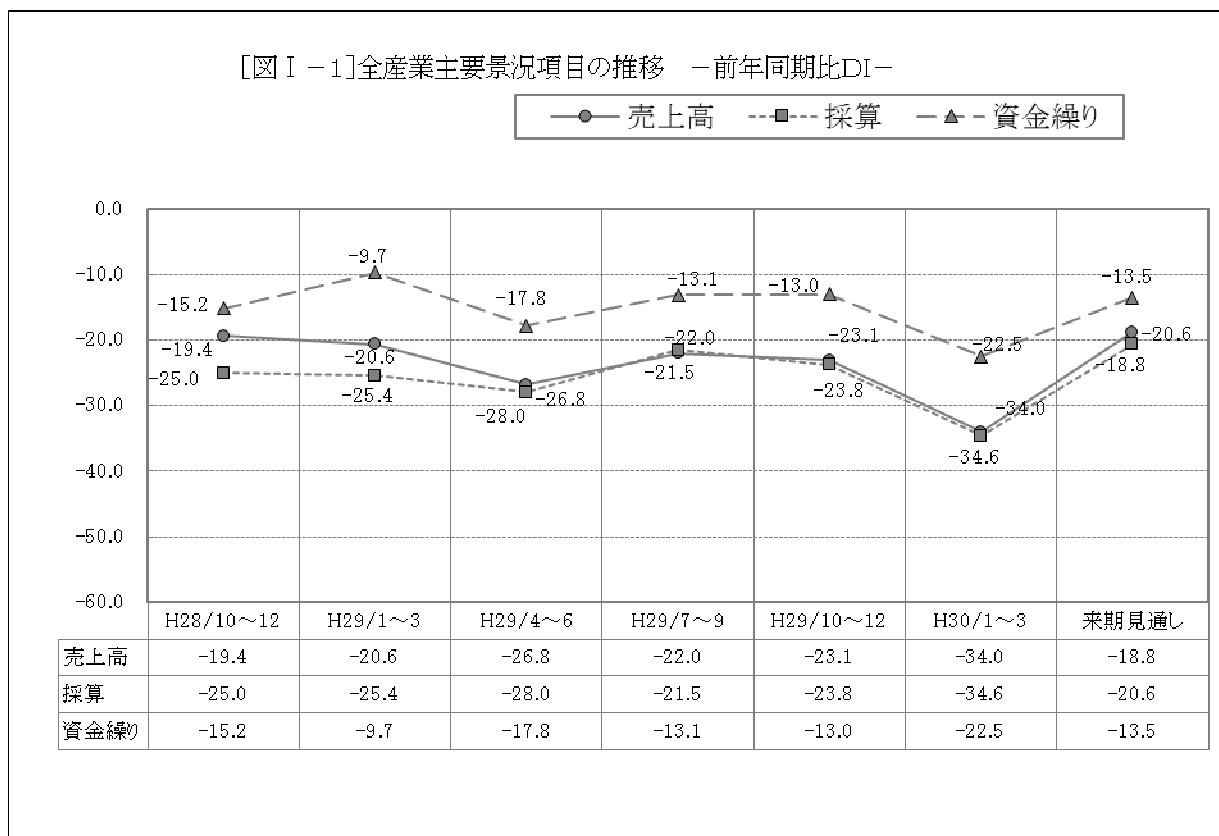
“原材料高騰や天候不順の影響もあり、景況は足踏み状態”

千葉県商工会地区の平成30年1～3月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図I-1]に示したとおり、今期売上高DI値は-34.0、前期（平成29年10～12月期、-23.1）比で10.9ポイントマイナス幅が拡大。同採算DI値は-34.6、前期（-23.8）比で10.8ポイントマイナス幅が拡大した。資金繰りDI値も-22.5、前期（-13.0）比で9.5ポイントマイナス幅が縮小している。全体的には、景況は悪化状態となっている。

また、前年同期（平成29年1～3月期）調査と比較してみると、売上高DI値は、前年同期（-20.6）比で13.4ポイント。採算DI値については、前年同期（-25.4）比で9.8ポイント。資金繰りDI値は、前年同期（-9.7）比で3.3ポイントマイナス幅が拡大している。前年同期と比較しても全項目で下回っており、今期の景況は悪化が顕著である。

業種別にみても、全ての業種が悪化傾向にある。唯一改善傾向がみられたのは小売業の資金繰りDI値である。ただ、これも季節性のものであるとも考えられる。製造業、建設業では、需要の停滞を問題点として挙げる事業者が増加している。一方、小売業・サービス業の2業種においては顧客ニーズの変化を問題点にあげる事業者が増加している。














来期（平成30年4～6月期）については、すべての項目でDI値は改善する見通しである。



II. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“一部の業種で景況は悪化、回復の動きは足踏みに”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

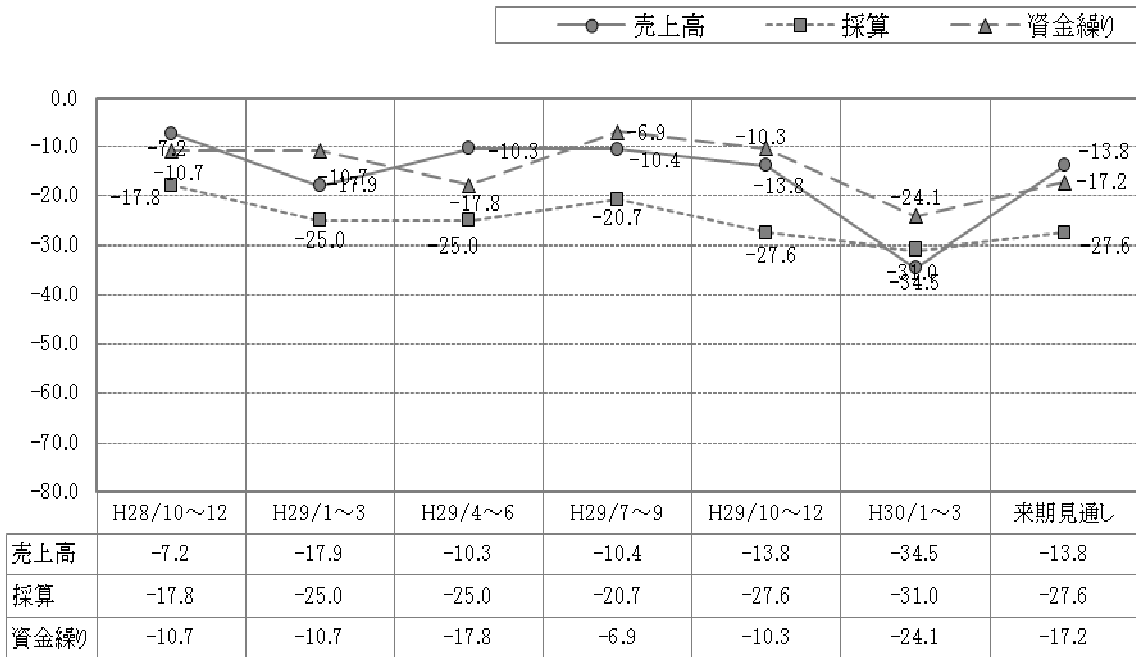
千葉県商工会地区における製造業の景況は、業種によるバラツキが大きく、特に食料品製造業については、原材料高騰のコメントが多く、景況は悪化している。このため、売上高 DI 値は-34.5 ポイントで、前期（-13.8 ポイント）比 20.7 ポイント、採算 DI 値については-31.0 ポイントで、前期（-27.6 ポイント）比 3.4 ポイント、資金繰り DI 値は-24.1 ポイントで、前期（-10.3 ポイント）比 11.8 ポイントと全ての項目においてマイナス幅が拡大している。

前期は横ばいで推移していたものの、今期は大きな落ち込みをみせている。問題点として製品ニーズの変化や原材料価格の上昇を挙げる事業者が引き続き多い。製品の付加価値化や、燃料費・原材料価格の価格転嫁、生産性向上についてまだまだ課題が残っていることがうかがえる。

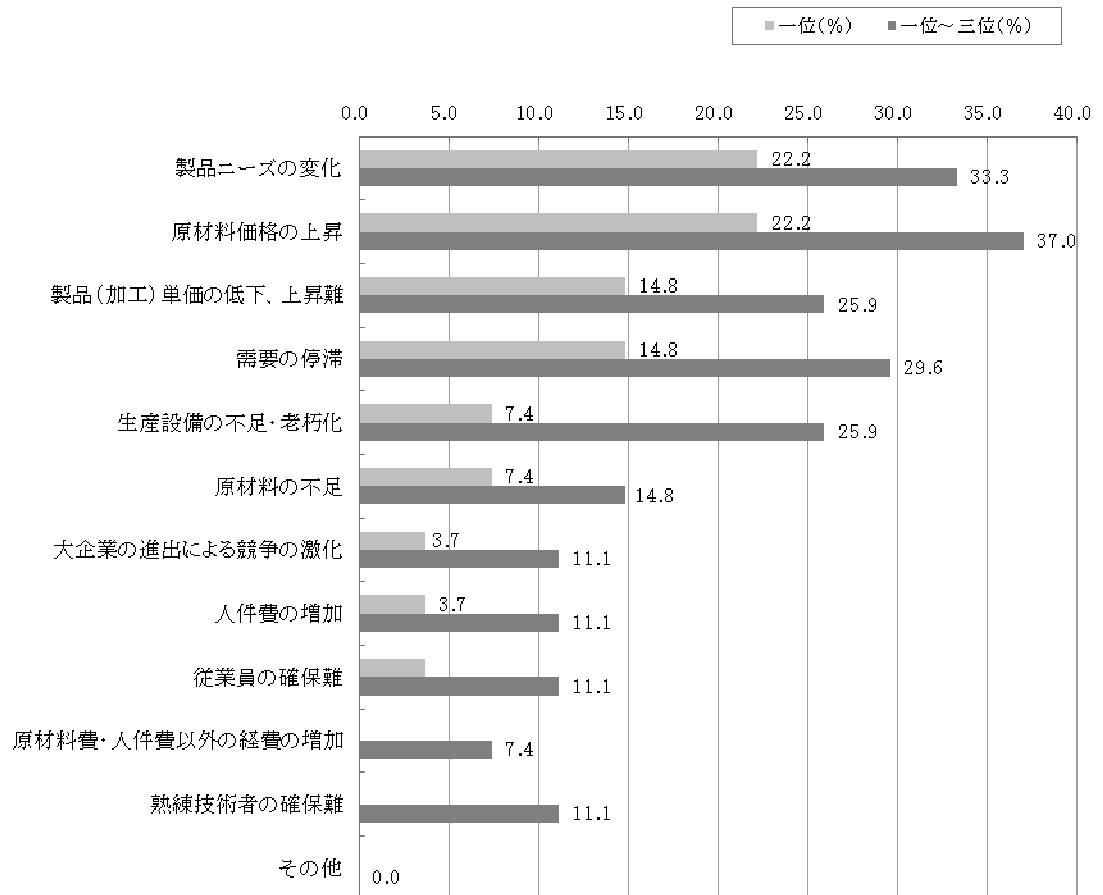
前期比較で大きく増加したのが需要の停滞と生産設備の不足・老朽化である。来期については、売上高 DI 値、採算 DI 値、資金繰り DI 値全てにおいて改善を予測、全体的には持ち直す見通しであるので、現時点では一時的な落ち込みと考える事ができるが、注視が必要である。

新規設備投資について、今期は1社が実施。内容は工場建物となっている。また、来期は3社が計画しており、生産設備、車両・運搬具の導入を予定している。

[図Ⅱ-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“人手不足が深刻化するも、景況感は好調”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

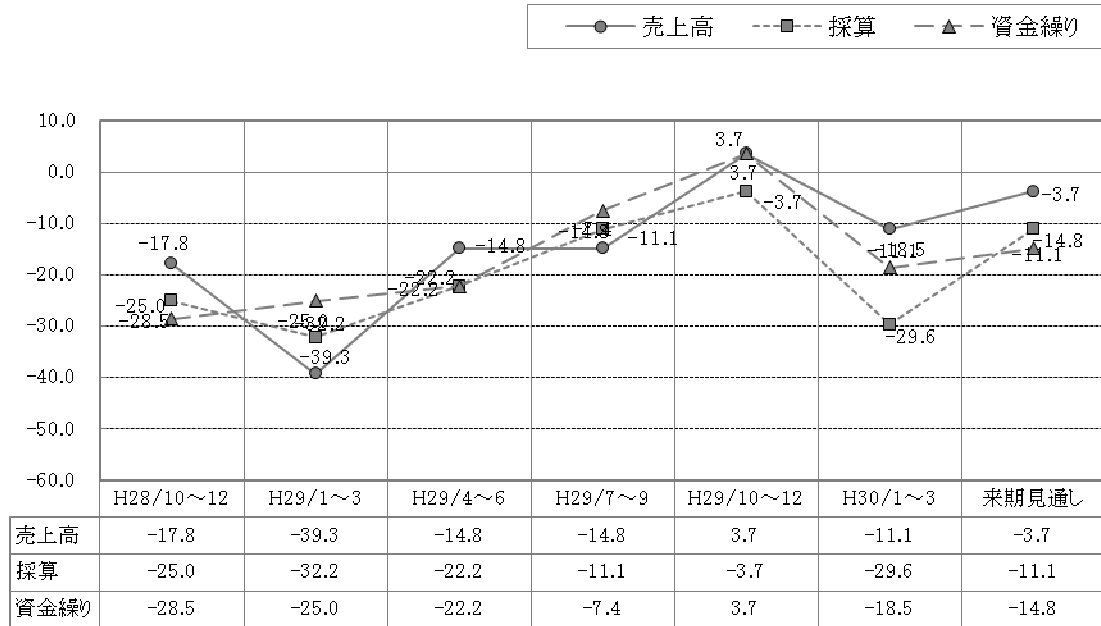
千葉県商工会地区における建設業の景況は、売上高 DI 値が-11.1 ポイントで、前期（3.7 ポイント）比で-14.8 ポイント、採算 DI 値については-29.6 ポイントで前期（-3.7 ポイント）比-25.9 ポイント、資金繰り DI 値も-18.5 ポイントで、前期（3.7 ポイント）比-22.2 ポイントと全ての項目においてマイナス幅が拡大している。

相変わらず従業員の確保難が問題点の上位にきている。建設業界の人材不足は引き続き大きな課題となっている。また、請負単価の低下、上昇難も引き続き高い状況である。さらに、大きな上昇をみせたのが民間需要の停滞である。ここに来て観光需要がひと段落したのが大きな要因と考えられる。

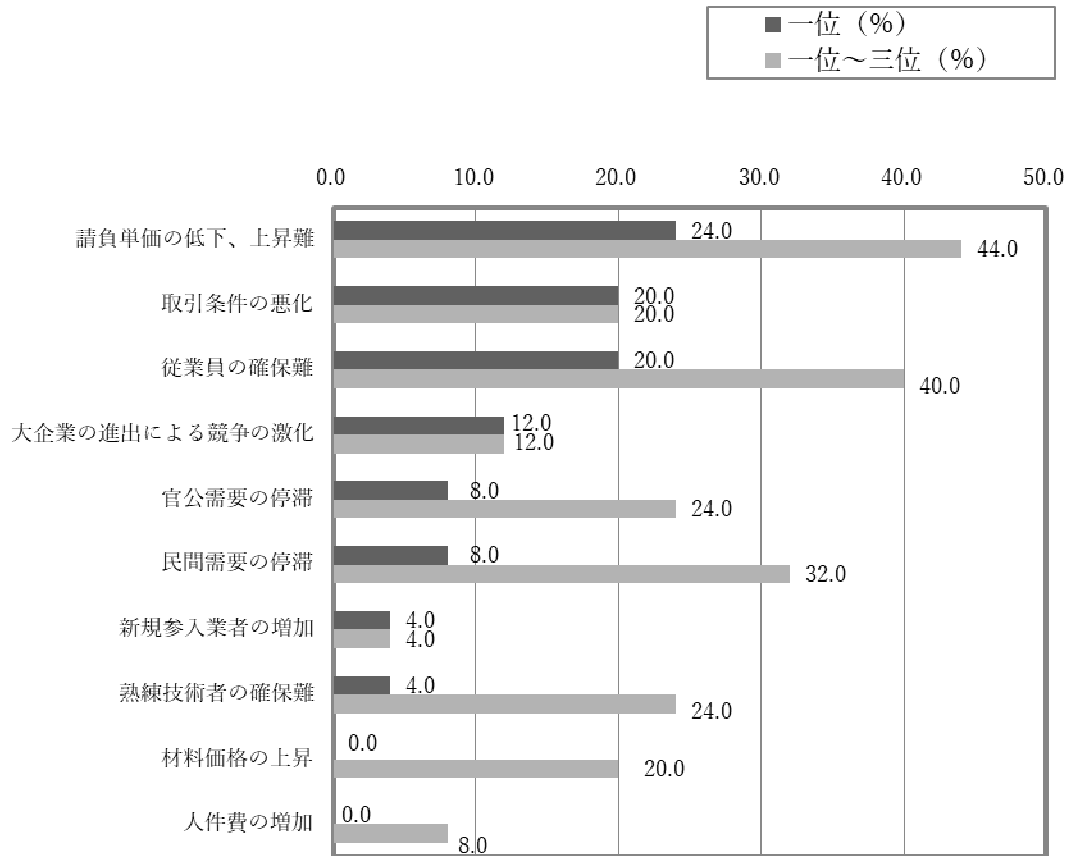
一方で、来期については、全ての DI 値において改善を予想している。中期的には安定しているとのコメントも見受けられた。DI も長期的には改善傾向にある。ただ、こちらも製造業と同様、注視は必要である。

新規設備投資について、今期は1社が車両・運搬具について実施。来期については、計画なしとなっている。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 -前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“天候不順の影響もあり、景況は悪化”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

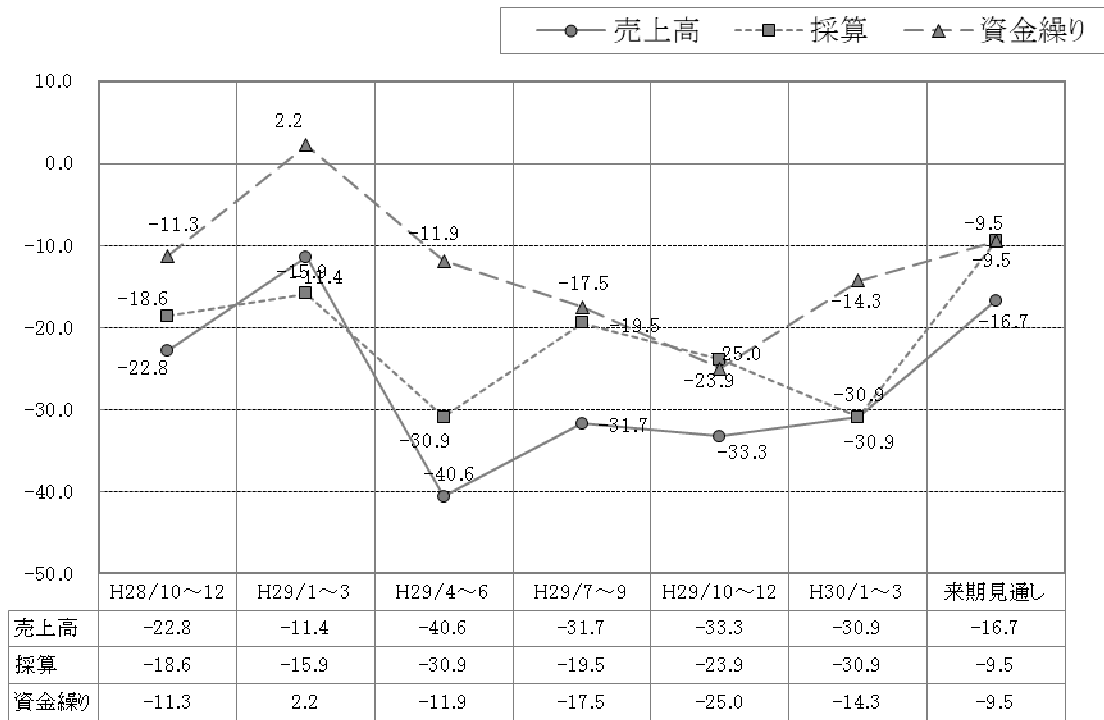
千葉県商工会地区における小売業の景況については、客数、客単価ともに減少している。売上高 DI 値は-30.9 で、前期 (-33.3) よりも 2.4 ポイント改善、採算 DI 値については-30.9 で、前期 (-23.9) から 7.0 ポイントマイナス幅が拡大している。資金繰り DI 値については-14.3 で前期 (-25.0) から 10.7 ポイント改善している。

前期と同様に購買力の他地域への流出、大型店・中型店の進出、需要の停滞の3項目を問題点にあげる事業者は変わらず多い。今期はこれに加えて消費者ニーズの変化を問題点にあげる事業者が増えている。需要の停滞をあげた事業者が多少減少していることから、需要は停滞しているのではなく変化していると考えられる事業者が増えたのではないかと考えられる。コメントの中では、少子高齢化による景況悪化をあげている事業者が複数見られた。

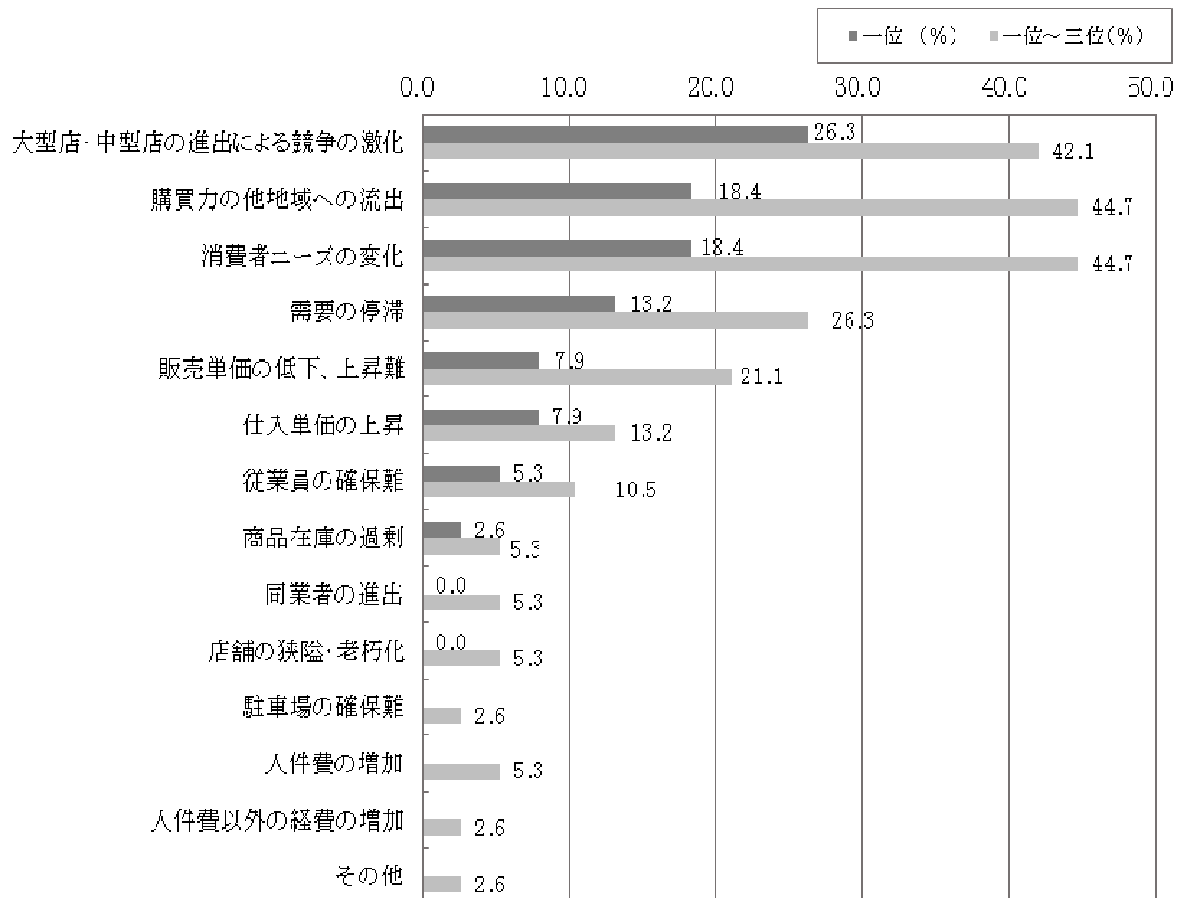
一方で、来期については、全ての DI 値において改善を予想している。

新規設備投資については、今期は3社が実施。内訳は、販売設備、車両運搬具となっている。また、来期計画は4社で、販売設備、店舗、OA機器等の導入を予定している。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“天候不順と原材料高騰の影響により、景況は悪化”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

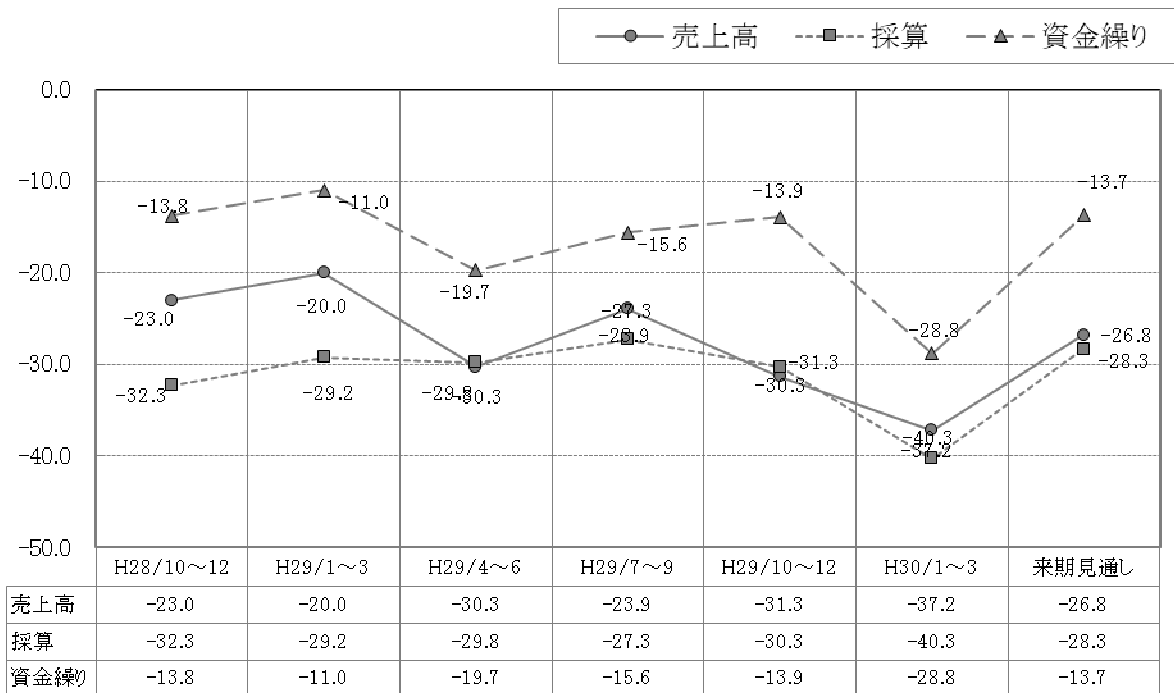
千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、売上高 DI 値については、-37.2 ポイントで、前期 (-31.3) より 5.9 ポイント、採算 DI 値についても、-40.3 ポイントで前期 (-30.3) から 10.0 ポイント、資金繰り DI 値についても、-28.8 ポイントで前期 (-13.9) から 14.9 ポイントマイナス幅が拡大している。

今期については、利用者ニーズの変化をあげる事業者が多く、こちらも小売業と同様、変化の兆しがみられる。さらに、材料等仕入単価の上昇や利用料金の低下、上昇難は相変わらず多くの事業者が問題点としてあげており、引き続き価格転嫁やコスト吸収ができていない状況が続いているとみられる。

来期については、全ての DI 値において改善を予想している。今期の落ち込みは季節性のものであるとのコメントも複数見られた。ただ、前年同期からその次の期へは落ち込みがみられるので、季節性の落ち込みであるとは一概には言えない。

なお、新規設備投資については、4 社が実施。内訳は、サービス設備、付帯施設、OA 機器等となっている。また、来期の計画では 5 社が、建物の建設、車両・運搬具、付帯施設の導入を予定している。

[図Ⅱ-7] サービス業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -



[図Ⅱ-8] サービス業 経営上の問題点の状況

